



379
 特253
 791

27
 65



始



15

279

791

791

事問題研究所編

国防に！産業に！

電力國家管理が急務だ

279
65

特253
791

時事問題研究所編



國防に！産業に！

電力國家管理が急務だ

時事問題研究所版



目次

- 一、産業の隆昌と電力の關係
- 二、近代國防戰と電力の重要性
- 三、國家總動員と電力管理の必要
 - 1 水力資源の合理的開發
 - 2 火力發電の無統制により貴重なる燃料資源が浪費されてゐる
 - 3 送電線の全國的連絡が必要
 - 4 治水又は他種利水關係間の圓滑を計る
 - 5 電氣料金の衡平化と料率低下を計る必要あり
 - 6 戰時電力動員の完全を期す
- 四、何故反對論が起り政治問題化するか
- 五、反對理由の檢討

産業の隆昌と電力の關係

電力國家管理是か非かの問題は、二・二六事件以來の稀有の緊迫した社會、政治情勢下に於て、全國民に對し、最も慎重なる檢討を要求してゐる。

殊に日支事變の長期抗戰への輸入が愈々明瞭になり、事變解決のためには、如何なる威力と雖も制壓し得る國力の充實が要求される現在の我が日本の立場に於て、國家的に最善の解決を與ふることは、非常時統後國民が只管己を無にして對處す可き重大事である。

それは電力が國家産業の隆替と緊密に結び付いてゐること、換言すれば産業上國防上今日程豊富低廉なる電力の供給が切實に要求されてゐることはないからである。

即ち商工省の工場統計に基づきこれを平常時的に觀察すれば、各種工場に於て使用せられる原動機中電動機の占むるパーセンテージは九八%である。

従つて此の事實に徴しても電力と産業隆替との間に結ばれた密接な相互關係は推知されるし、

豐富なる電力の供給を確保せずして産業の隆盛が期待出来ないことは明瞭なのである。

四

それ故にまた、過去に於ける我が國電力の供給力が、その実績よりも、更により豊富且つ低廉であつたら、我が國産業の生産力は今日以上遙かに多くの生産高を示してゐたらうし、國防も更に一段と完全なものとなり、國家經濟上にもより多くの貢献をなしてゐたであらうといふことが考へられるのである。

以上は平和時的に觀た電力と國家産業との關係であるが、然らば非常時下に於て電力は如何なる立場に置かれるのであらうか？

近代國防戰と電力の重要性

周知の如く最近數年間に於ける世界各國の國防には注目す可き新情勢を展開して來た。

一 即ち英國は昨年二月、向ふ五ヶ年間に十五億ポンド、邦貨に換算して約二百五十五億圓の巨大なる再軍備計畫を發表し、フランスも亦總額百九十億フランの國防四ヶ年計畫を公表したほか、

ロシアは昨年度一ヶ年間の國防費として百七十五億ルーブルの巨額を計上しドイツは再軍備費のみでも過去三ヶ年間に四十億千五百萬マルクに達する國防費を支出したと云はれる等、専門家の計算に依ると昭和十一年に於ける世界六十ヶ國の軍事費は百七十億三千萬弗に達し、二年前の（昭和九年）五十億六千四百萬弗に比較すれば實に二倍以上に激増してゐることである。

かくて國防産業を樞軸として各國各々の國家生存に不可欠なる部面の生産力擴充工作は、世界的、物的の資源の凡てを擧げて動員しつつあるのである。

これは『國家間の生存競争』の白熱化そのものが各國をして、國家國民全體の關與す可き近代國防戰爭へと驅り立てるからであつて、國家間の生存競争に優位を占めること、換言すれば近代國防戰爭に打ち勝つためには、國家全局の見地より、資源と資金とを最も經濟的且つ効果的に使用して生産力を擴充し、以つて物資を最大限度に豊富ならしむることが、絶對的必須條件であるからである。

それ故我が國に於ても右の如き國際情勢に順應して、滿洲事變以來準戰時體制下に生産力の擴充を目標とする幾多の産業政策が立案實施され、その実績は、これを産業別生産額に就いて見て

五

も、直接的國防産業たる金屬工業は昭和六年の四億三千百萬圓が十年には四倍餘の十八億八千萬圓に、機械器具工業は四億九千八百萬圓が約三倍の十四億六千二百萬圓に、化學工業の八億一千六百萬圓が二倍強の十八億一千三百萬圓に、夫々著しい増進振りを示してゐる。

然し今日の時局は此の程度の生産力擴充を以つては到底自慰し、安堵してゐられるものではないのである。

何故なら日支事變の經驗に於て既に吾々は近代戰の一斑を知り得てゐるのであるが、豫想されるところの將來戰は、その規模に於て、將又その繼續期間に於て大且つ長期に亘るが故に、此の程度の生産力では到底戰時需要は賄ひ切れないであらうといふことは確實であるからである。

近衛内閣が組閣勿々發表した所謂經濟政策の三原則中第一に生産力擴充を掲げてゐる所以も茲にある。

が生産力擴充の具體化に當り、先づ解決さる可きは、資金とともに資材の側に於ては、動力及び燃料と勞働力といつた物資生産の基本材の供給を如何にして豊富に圓滑にするかといふことである。

周知の如く動力並に燃料資源として考へられるのは、先づ水力、石油、石炭であるが戰時に於て飛行機、自動車その他直接軍需用として無限大に要求される石油は、我が國に於ては、平時に於てさへその大部分が外國からの輸入に仰ぐ状態であり、石炭の埋藏量も亦我が本土内には決して豊富ではない。

加之豊富でないところの此の石炭は、戰時に於て、ガソリン一滴が人間の血液一滴に値すると言はれる程に戰爭の死命を制する力を有つ石油を補給するための、液化燃料用原料として、軍事的に無限に要求されるものであるから、今後に於ては、たとひそれが軍需工業用としてでも、固定した製造工業設備の動力乃至燃料用として、不斷に大量に使用することは許容出来ないのである。

斯く見て來れば、残されてゐるのは電力だけであるが幸なことには山岳と雨量に富む我が國に於ては、水力資源のみは世界の一流資源國以上に恵まれてゐるのである。

それ故此の天恵の水力資源を開發することに依つて、我が國産業界は極めて豊富な動力並に燃料用電力を得ることが出来るのであつて、これに依り重要國策としての生産力擴充の重要な部

分が先づ解決されるのである。

然るに現在我が國電力界は如何なる状態にあるのであらうか？

八

國家總動員と電力管理の必要

現在本邦電力事業は、所謂五大電力をその基幹的なものとして、大中小取り交ぜ、全國約八百の企業組織に分立してゐる。

而してそれ等の總發電力は約六百萬「キロワット」で、總投資額は六十五億圓に達し、我が國産業中鐵道事業に亞ぐ大資本が、此れに集中されてゐるのである。

如何に事業自體が、社會性乃至普遍的といつたことばを以つて表現されるころの、所謂公益的事業としての性質を完備してゐるかを知らることが出来るのである。

更らに、それが如何に獨占的に高度化され來つたかは、前述の如く、全國總發電力中の三十八%に當る二百二十萬「キロワット」を五大電力が占め、資本總額中の二十八%に當る十八億六千

萬圓が、五大電力會社に集中されることに依つて明瞭である。

然らば資本的にそして設備的に斯く高度の發達を遂げた電力は、果して最も効果的に國家産業並に、國民生活に活用されてゐるか如何、電力事業が、東京に於て初めて一照引用としての微弱な存在から、今日前述した如く動引用、原料用として本邦産業の發達に寄與貢獻したところの足跡は大であつた。

然しそれは凡て企業として利潤の見込まれ得る範圍と限度に於ける事業的貢獻であつたに過ぎぬ。

企業が利益採算を目安に置いてのみ營まれるものである以上事業家達が企業利潤を度外視して、或は損を覺悟してまでも國家産業の發達に寄與し得ないことは當然である。又、今後如何に國家産業の盛衰否國力の隆替に關する場合に立ち至る時と雖も、恐らくは左様な義勇心を以つて企業經營に當ることは出来ないであらう。

それは事業家に盡忠報國の精神がないのではなくて、電力業者達は國家非常時に際し報國獻金はするが、電力料金の低下に對しては極力之を濫る様に、業者達はこと事業に關する限り、彼等

九

の全人格をより多くの企業利潤の獲得を目的とする企業本来の趣旨と、その機構に束縛され、如何に國家産業の隆替に關する場合と雖も、事業人としては企業利潤を度外視してまでは、これに寄與することが出来ないのである。

それ故利益の多い産業乃至地域には電力は供給されるが、然らざる方面に對しては如何に産業上社會上乃至國防上必要であらうとも充分なる供給に期待されないのである。

例へば、國民食糧の生産を擔當し、而も今日及び今後に於てその主要勞働力の源泉である青年と馬蓄を最も多く國家に徵發動員されるところの農村への電力供給は、從來常に不採算的であるが故に電力の供給は甚だしく高價且つ少量で、國民主要食糧の生産部面に於ける能率の向上を著しく阻碍して來てゐる。

試みに食糧問題との關聯を一瞥しても、我が國食糧の大宗たる米の内地生産は、年約六千萬石で、これに對して需要は凡そ七千萬石であるが、一千餘萬石の不足分は朝鮮又は臺灣米の移入に依つてこれを補つてゐる。

これは然し小時に於ける状態であつて、萬一世界大戰に於て獨逸が經驗した様な、國家總動員

的事態が発生し農村の青壯年者が或は戦線に動員され、或は又軍需工場に吸収されて、老幼婦女子のみ田園に取り残されるが如き状態に置かれた場合、果して良く全國民の食糧を不足なく供給し得るであらうか？

今日吾々は支那事變に遭遇し、専門家の謂ふところに依ると、現在の戦争は近代戦としては眞に模型にも等しい小規模のものに過ぎないとのことであるが、それにも拘らず、今日既に農村に於ける人馬の應召徵發に依つて今後の養蠶最盛期、又は水稻植付期等の農繁期に於て發生す可き事態の收拾が憂慮され、農業生産力の減退が問題となつてゐるのである。

それ故若し電力が農村に低廉且つ豊富に供給され、農村電化が完全ではなくとも、せめて施設だけでも出來てゐたなら、假りに農事作業中一番厄介で、而も一番重要な耒耨作業にしても、これを四分の一馬力單位モーターでやれば、一時間に約玄米一石五斗を處理することが出來て、人間勞働力の略八人前の効用を果し得るのであるから、今日憂慮される如き事態に逢着せずにするのみでなく、過剰電力はこれを家内工業に振り向け老幼者に技術を習得せしめ、生産擴充の一助となし、疲弊せる農家に現金収入の途を開くことができ農村經濟をして、今日の如く窮乏底な

きものたらしめずしてすんだかも知れぬと思ふのである。

然るにこれ等が凡て圓滿に行かなかつたといふのは、事業の性質と經營機構との關係がピッタリ行かなかつたことに歸せらる可きで、その結果が國家的見地から見て、不利不得策、且つ國民大多數の生活に利益をもたらさず、或は國家的に有利で、しかも國民大多數の生活により多くの利益をもたらす方法があつたとすれば、假に従來の方法が永い間の習慣に依り國民に馴らされてゐたとしても、より良き方法のためには、古い習慣や方法は、既にその方法習慣が有つ限度に於て、その職能を果し了つたものとして潔く廢棄されねばならぬ。

吾々はかくてこそ我が國産業の進歩發達も、そして、國力の増進も考へられるのだと思ふが故に、古い方法が如何にその限界に達し、是正さる可き本質を有つてゐるかに就き更に二、三列記して見やうと思ふのである。

(1) 水力資源の合理的開發が期待出來ぬ

資源に乏しい我が國にとつて發電水力こそ電氣エネルギーの寶庫として、使へども盡きぬ天與の富源である。由來我國は是等熱源を爲す資源に乏しく、石炭は刻下の緊急需要を充すことは

出來るが、その埋藏量の點に於て壽命が短かく、石油に至つては僅かに所要量の一割を産するに過ぎない。加之石炭石油は前述の如く、直接的軍需用熱源として、産業方面に於ける使用は將來殆んど期待出來ないのである。

然るに水力のみは地形、氣候の關係で到る處に水力發電地點が存在するのである。併し此の恵まれたる水力發電地點にも限りがあるのであつて、その殘存水力に就いては人智を盡して合理的積極的な開發を爲すことが電力の國家的社會的使命に照して絶對必要事なのである。然るに電氣事業の現状は八百餘の事業者が各自營利を追及して對立して居り、勢ひ水力資源の開發は目前の採算に囚はれて設計し、進歩的開發を爲さんとする者が偶々あつたとしても自己の供給區域に於ける電力の消化力が小さく、又利害の相違に依つてその消化の爲に他の事業者と妥協することが出來ず、自然に消極的退嬰的となるを免れぬのであり、かくて貴重なる水量がみす／＼放流されてゐる場合が多々あるのである。

(2) 火力發電の無統制に依つて貴重なる燃料資源が浪費されてゐる。

石油資源に乏しい我が國は液體燃料を得るために、その原料として年々石炭四千萬噸を必要と

するのであるが、石炭にはまた他に幾多固有の用途があり現在年約四千萬瓩を消費する實態で、これ等の需要に應ずるだけの出炭は國內に於ては殆んど不可能とされてゐる。

然るに現在の企業形態は、各社思ひ／＼に施設運轉し居るため、燃料節約の趣旨にも悖り、發電原價をも高からしめてゐるのである。而も石炭は電力需要の旺盛なる時昂騰するを常とするが故に近時の如く生産力の擴充を必須とする場合に益々その電力料金を高めざるを得ないこととなり、國家的要求に甚だしく背馳する結果となるのである。

(3) 送電線の全國的連絡が不可能である。

河川はその存在する場所に依つて甚しく流量に差異があり、又電力の需要はその用途に依つて量的にも時間的にも著しい相違があるものである。従つて全國的に送電線の連絡を計り、異なる水系を結び合せ、綜合された不足水量に對しては火力發電を能率的に運轉して之を補ひ、一方負荷の異なる需要を適當に按配して電力の配給を爲すならば、設備の餘裕を大にし、その利用率を高めることが出來て、豊富且つ低廉な電力の供給が可能となり、茲に初めて理想的な電力經濟が實現することとなるのである。

然るに現在に於ては前述の如く發送電ともに多數の事業者に分屬し、その間に連絡なく、各自が夫々の特殊事情の下に隨意に運營してゐるため、或る事業者がA地點よりB地點に送電してゐるかと思へば、他の事業者は逆にB地點からA地點に送電してゐる如き不經濟は隨所に見られるのである。従つて國家非常の場合と雖も現在の状態では全國の發電力を集約して、國防上必要な方面に集中的に電力を供給するといふが如きことは到底期待出來ないのである。

(4) 治水又は他種利水關係者との間に圓滑を缺き、その土地權利者との間に摩擦が多い。水力發電に當り灌漑用水取入口との關係を考へ、治水に付てもダム堰堤に治水上の考慮を加ふるならば、國民經濟上に於ける利益は蓋し莫大なるものがあらう。併し現在の電氣事業にはその多きを望み得ないし、又他種利水權者との關係も、當事者が一般に營利會社であり、その措置は往々にして國民大衆の反感をそそり、忌しき紛擾を生じて遂にその解決の爲め巨額の費用を投ずるの己むなきに至り、結局電力原價を高からしむるといふ弊害は相當顯著なものがある。

その他土地權利者中には豫め土地を買ひ占めて不當の補償を要求する等相當惡質のものがあ

らした者があつたほどで、斯様なことの爲め全國的には巨大な経費が空費されて居り、開發計畫が歪曲されて、水力資源が徒に一部人士の私腹を肥すの具に供されてゐるのである。

(5) 電氣料金が衡平を缺き、その料率が割高であり、而も政策的考慮が加へられざるため産業的、社會的政策上必要なる方面に電力の低廉なる供給が期待出來ぬ。

現在の如く個々分立、大小種々の營利組織の下に、地理的經濟的事情を異にする事業者が對立して居つては電氣料金の衡平化は到底期待出來るものではない。現金收入の途に乏しい田舎や小さい工場程その料金が高いといふ矛盾は讀者の屢々見聞される所と思ふ。

それのみでなく、水力の開發、火力の併用、送電線の連絡が合理的に行はれてゐないことは電氣の供給力を狭め、その原價を高めて、貿易上、國防上最もその發達の望ましく、而も電氣を原料的に大量の使命する新興化學工業に低廉な電力を豊富に供給するといふが如きことは望み得べくもないのである。

(6) 戰時電力動員の完全を期し難い。

戰時所要の場所に電力の大量集中を爲し得る様送電連絡の完備を圖り、低能率のため常時使用

しない火力發電設備もその保存を充分にし、自家用發電設備も送電幹線に豫め連絡して置き、非常の際には電力動員に参加せしめ、電力使用の急需に應ぜしむるといふが如きことは斯業の現狀に於ては全く望めないことである。

以上要約列記した如く、電氣事業は現狀の儘では、最早や國家的要望に副ひ得なくなつたのみでなく、場合によつては却つて相背馳することさへあり、而もその傾向が益々甚だしくなる條件を多分に含むのである。

そこで此の項を了るに當り、斯界の耆宿として知られた福澤桃介氏が曾つて或る場合に説かれたところを引用して、讀者の參考に供しやうと思ふ。

「我が國水力電氣會社は今や數百の多きに及び各社は個々の計畫を樹て分立割據せるを以つて自他の利害相反するも顧みず、一河川に於て數社の計畫重複し、甚しきは競願のために開發の好期を逸するの憾あること稀ならず。其の結果計畫の杜撰となり、或はその河川各地點の連絡を缺き、出力を減じ、遂に永久の損失となるに至る。

茲に一河川あり、上流に貯水池を築造し、下流及び各地點全部の流量を豊富ならしむる天興の

好地形ありとせんか。而して現在又は計畫せられたる地點が幸に同一會社の企圖に係る時は敏速に、經濟に、完全に之を開發することを得べけんも、反之下流諸地點の企畫者が數社分立するときは各其意見を異にし、到底一貫したる計畫を樹つるを得ず、可惜、天與の好地形も遂に放棄せらるゝこと莫きを保し難く、又之を送電線に就いて見るも一路を以て能く大量の送電に耐ふるに拘らず、企畫者分立のため、敷線を以つて同一地方に送電供給するの愚に陥り、或は又地方的氣象關係に依り、湯水時期を異にする河川の使用の量の激變に際し、彼此相調節するが如きは到底望む可くもあらず、即ち會社の分立より來る損失は決して尠ならず、延いて大なる國家的不經濟を招來するに至る……』

何故反對論が起り、政治問題化するか

電力事業が現状のまゝでは、即ち多數電力業者が相分立して、各獨自の利益採算を目標として事業が運営されることが、今日では最早や非常時國家の要望に相背馳する以外何等の益なきこと

そして斯かる不合理な状態は可及的速かに打破されねばならぬことが、國家今日の緊要事であることが、前項までに屢述したところに依り、大體に於て明瞭になつたと思ふ。

然らば前述した如き現状に於ける缺點、短所を放棄し、非常時國家の要望に副ひ得る如き理想的状態に發展轉化せしむるには如何なる方途が考へられるか？

現在の場合國家財政その他の事情を考慮して、今次政府案の如く、現在民間主要事業設備の現物出資を求めて、これを國家の管理下に置き、綜合的經營を爲すことは、數多考へられる方法中最も時宜に適し、當を得た方法であらう。

然るに萬民舉つて賛成されねばならぬ筈のこの電力國策は、三年越し、重大な政治問題化してこれが未解決に了つてゐるため、稀有の國難に當面し乍ら國防産業各方面に於ける國家的要望は著しくその具體化が遷延せしめられてゐる。

何故反對論が現はれ、政治問題化するのであらうか？

元來電力事業の國營化乃至其の強度なる統制を要望する論議は今に初まつたことではなく、大正の末期から昭和の初頭には最も眞剣に論議せられ、各政黨は舉つて電力問題の研究に没頭した

ものである。

而してその結論として民政黨は

- 一、電氣事業を國營とすること
- 二、特殊會社を組織し、電力事業を統一せしむること
- 三、法律的に電力事業を統制すること

の三案を發表したし、また政友會に於ても電力事業は國營とするを理想とする趣旨の具體案を發表してゐる。

更にそのみでなく、現在電力問題に對し反對運動の一方の雄である宇治川電氣社長林安繁氏は大正十一年六月『今や世界の經濟戰に於て最も必要であるのは、機械工業であつて、機械工業の原動力が低廉に、且つ豊富に供給せらるるかどう乎といふ事が、非常に各種工業の發展に影響するは言を俟たざる所である』

『此の時に當つて工業の原動力である電氣の供給を低廉且つ豊富ならしめる必要のあることは論を俟たざる所であつて、何人もさう考へてゐるに拘らず、之を低廉にすることの出来ないのはど

う云ふ譯であるか、之は爲政者、國民、電氣事業者が共に國家利害の見地に立つことを忘れて、各其自個の利害にのみ拘泥するからである。是の故に我々は『電力國營』『水力發電に關する特別法規の制定』を叫ばなければならん所以である。『近時漫然電力國營論を主張するものがあるけれども、余の所謂國營論は『水力發電國營論』云ひ換へれば『電力卸賣國營論』を主張せんとするのである』一言にして之を盡せば『煙草專賣』『鹽專賣』と同じく、政府は卸賣ばかりを経営し、小賣は之を電氣事業者に一任するを得策なりとするのである』『之を要するに水力發電事業を國家の經營となす時は、上記の如く工事進捗、經費節減の二點に於て得る所が少くない。随つて發電費は低廉となり、發電力は潤澤となり低廉に電力の卸賣をなすことが出來ると思ふ。之が即ち根本に於て水力發電國營論を主張する所以である。かくして發生したる低廉なる電力は、之を低廉に電氣事業者に販賣し、電氣事業者は又之を各需要家に低廉に供給することが出來る……』と論じ、國營の範圍や方法まで指示して、電力國營を提唱してゐる。

また東京電燈社長小林一三氏は、最近各方面の新聞雜誌に、署名入の反對論を掲げたり、或は談話を發表したりしてゐるが、氏も亦昭和十年五月次ぎの如き所見を述べてゐる。

『凡そ電力事業の中でも水力事業といふが如き國家百年の大計と終始す可き性質のものは必ずしも其建設費に對する利潤のみを考へて事業化するといふ事よりも、道路又は港灣の如く、一國産業の基礎工程に處して、必要缺くべからざる設備の一つとして、考へて見る時代が來たのではないかと思はれます。それは丁度神戸港とか、横濱港などを築港するのは、其港が立ち所に利廻計算を見せてくれなくともよい。結局それは國家を強大ならしむる利器となるのであるから——といふのと同じやうに、水力電氣を考へる時代が次に來るのではないかと思ひます。』……即ち統制をして巧くやれば電力料は相當に廉くなるといふ此の惠まれた水利國が、此の水利事業を今までの様な利潤本位の企業會社で舊式にとらはれて昔のやうにやるべきものであらうか。或は又新しくこれからやる可きことは統制して國家又は府縣がやるべきものであるかといふことを研究して戴きたいのであります……』と。

かくて彼氏は其の意見に計數まで加へて、パンフレット様式の意見書を約百部位作製配布したのであるが、一般に赤字續きで悲觀視された電力事業は軍需景氣の擡頭で電力の需要は激増し、電力會社の業績は急速に立ち直り初めたからでもあるまいが、頼母木案が噂され初める直前某雜

誌記者が、東電調査部に彼氏の曾つての意見書を貰ひに行つたところ、その時は既にその意見書は外部に見せることを嚴禁するとの指令が來たあとで、而も既に配布された幾部かもこれを回収すべく躍起になつてゐるとの話であつた由であるが、それは兎も角として、右に述べた様に電力事業の統制強化に就いては、過去に於て一應討議済みで、且つその結論は、今日の反對運動者たちまでがこれを政府始め各方面に慫慂した程好い事となつてゐるのである。

それが數年後の而も最もその實現が痛切に感ぜられる國家非常時の際に至つて、曾つての言動は全く知らぬかの如く、逆に反對運動の中心に轉化しやうとは、如何に考へても良心的には理解し難いことである。

然しそれは、氏等が提唱した時期と、反對しつゝある時期との、二つの時期の事業界並に電力會社の景氣を比較すれば氏等をして、國營を主張提唱せしめ、或は反對せしめる所以のものが大體明瞭になる筈である。

即ち林氏等が電力國營を主張し、提唱した大正十一年頃は周知の如く事業界不振の時代で、従つて電力會社の業績も一般に悲觀的なものであつた。今一つは政府の財源を得る方法としての電

力國營が考へられてゐたので、芳しくない電力事業は政府に高價に買つて貰つた方が、結局得策だといつた考へが働いたのであつて、小林東電氏の昭和十年のそれは、第一次のその修正のための第二の分だと解されるのである。

然るに悲観された電力事業は、軍需景氣の擡頭に逢つて、電力の需要は不足勝ちになるほど激増したし、そのため不足時代に比較的低率な料金を以つて供給されてゐた部面の電力料金は一齊に引き上げられ、事業収入が激増するとともに、従來の赤字は消し飛んで借金を拂ひ、配當も樂々と引き上げられる様になり。而も此の景氣は今後尙ほ當分は繼續されるであらうといふ様な確實な豫測が樹てられる状態になつて來た。

かゝる時に電力問題が持ち上つたのである。

企業家が儲けの種を手放すことを嫌ふのは當然であるし、儲けの幾分かを反對運動資金に出して、政府案を打ち破らうとするのは當り前である。

反對理由の研討

反對論者達は何れも自己の立場に對しては忠實である。

然しそれは何處までも限定された職業人として、自己の職業に關聯する利害得失の觀點からである。その忠實は職業の機構から離れた個人として、義務と報公の責を負ふ可き國民としての全體的な觀點からの忠實ではない。

個々の職業人の利益のために、全體的な必要が代位されるといふ如きことが、今日の逼迫した社會情勢下に於て許容され得べきことであらうか？

反對論者達は政府案を排撃するに次の如き點を掲げて反對理由としてゐる。

- 1、私有財産の不可侵性に對し甚しき不安を與ふるものである。
- 2、役人仕事では電力料金の低下は望めない。
- 3、政府の産業管理は官僚獨善思想の發露である。

4、内外債の處理難に涉着し、案の實現困難である。

5、將來の開發資金の調達に困難を來し、所期の目的は達成されないだらう。

右の五項目中第一の私有財産云々の項は、電力事業者達が、反對運動組織に當り、財界事業界を運動の渦中に引き入れるために選擇したところの、反對理由中の最も美裝された項目である。

この項目はこれを類推して國家社會主義にこちつけ頼母木案の排撃に最も役立つたもので、産業を國家管理とする點は國家社會主義の烙印を捺すに極めて好都合に出來てゐるので反對論者達は、如斯民間事業を國家の管理に移す基本概念は、將來他産業にも轉用されるに至るであらう。かくては資本は産業方面への流通を嫌忌するに至り、延いてはそれが原因となつて遂には國家産業を萎微沈滞せしめるは必定である。それ故財界は舉つて政府の電力案に反對す可きである……といふのが反對論者の云ひ分である。

産業を國家の管理とすることが何故私有財産權の侵害となるであらうか？ 若し斯様なことを私有財産權の侵害呼ばはりするならば我が國には既に鐵道、鹽、煙草等々幾多の産業を國民の總意に基き、國家の名に於て國家の事業として運営して來てゐるではないか。

如斯既に我々は過去に於て斯る國家的經驗を有つが故にこそ法理上にも、實際的に非違の點なしとの確信の上に立つて、反對論者中特に電力業者の一部の人士は曾つて自ら國營を提唱したのではないか？ 然るにも不拘今日私有財産權の侵害とか、國家社會主義呼ばはりするその眞意が専ら私利私慾に出發してゐることが餘りにも明瞭過ぎて擊斃するの外ないのである。而も電氣協會を通じてバラ撒かれる反對運動資金——反對宣傳用パンフレット代——の多寡が原因で、電氣業界新聞雜誌記者間に醜惡な内紛を起し、これを繞り怪文書が飛んだり、或は名譽ある國民の代表を買収したとか、されたとかいふ様な噂が出たり、或は更に電氣協會に於て作製された反對宣傳パンフレットが二、三の電氣業界新聞雜誌の名に於て發行され、電氣協會がそのパンフレットを買ひ取る形式に依つて、態の好い買収資金が所謂寄生組の間に提供されてゐる事實等を思ひ合せ、その私慾のために此の非常時下の重要問題に就いての國民的意思表示を歪曲された方向に誘導しやうとする。彼等反對論者達の陋劣、國事を冒瀆する不敵な心事は、現下稀有の國難に遭遇し、國民大衆が老幼男女の區別なく、戦線に、銃後に己を滅し凡ゆる苦難に耐へて只管報公の實を營む可く勇奮しつつある此の秋に於て、これを單に唾棄す可しと謂はんよりは、むしろ非國民

的烙印を捺すに値するものではないかと思ふのである。

反對論者達の三思三省を切望して止まぬところである。

彼等はまた電力の國家管理が、實現すれば資本は産業界から逃避し、國民經濟を萎縮せしめると謂ふ。

資金が事業界に向はなければ、資金は自らの職能を果すためには何處に向ふと謂ふのであらうか。

資金は今日海外に逃避するの途は合法的には最早残されてはゐない。

して見れば行方を有たぬ資金に退蔵の一途が残されてゐるだけであるが、物資の不足が痛感され、ます／＼活潑なる生産活動が要望されてゐる現状を眼前に眺めつつ、如何にして資本が退蔵されて、安居し得るのであらうか？

この經濟原則を解し得ぬのは、資本の本質を知らずして、不幸にも資本とその機構に驅使され來たつたところの貧困な反對論者達だけであらう。

斯る意味に於て若し彼等が眞實に産業が萎縮すると考へてゐるのであつたら、彼等の經濟に關

する認識は、實は封建時代の極めて保守的商工業者と略同程度であつて、資本主義經濟も、それ以後の經濟も知らない者である。が若し彼等が充分な認識を有ちつつ、而もなほ反對するがための理由とするならば、私は甚だ不本意乍らまた彼等に毒舌を浴せねばならぬ、非國民!! と

次に料金と供給量の問題であるが、政府案によれば豊富な供給が得られることは萬人の認むるところである。が料金の低廉化に就いては業者達の間に於て役人仕事では料金の低下は不可能だといふことを宣傳してゐる。

然しその可能なりとされる計數的根據は、議會に於て政府側が提示したところに依つて充分である。

筆者は専門家にとつてさへ難解な電氣的計數を茲に引用して一般讀者を混亂に導くのを避けるため茲では計數的論究を省くが、業者達は過去數次に亘る逓信當局との間の料金問題に於て果して、眞剣に料金を低下す可く眞摯なる態度を示して來てゐるか？

過去數次の當局の料金低下懇懇に對し業者達の示した答は、これ以上の料金低下は不可能なりといふことではないか。

東洋平和の鍵の所持者から今や國際政局の動きに重大なモメントを與ふる段階に到達した我が國は、生産を豊にし、國力を數倍にするための、國策的意味に於て、業者達が不可能なりとするこれ以上の料金低下を絶対に必要とするのである。

従つて客觀的に見て幾百の事業會社に分立する現狀に於ては、國策に副ふだけの料金低下が不可能であり、また業者達自らがこれ以上の料金低下は不可能なりとする以上國策が満足に遂行されるためには、機構の變更もまた止むを得ないことではあるまいか。

絶對必要とされる料金の低下は斷る、それかと云つて機構の變革は反對だといふことは、今日の日本の國內情勢から見て、それは現政府の執り上げた凡ての國策を放棄せよ、といふことを意味するのではあるまいか？

かゝることは、現在日本が置れた國際環境裡に於ける立場に照合して何を意味するか？

それは國際間に於ける日本の敗退を意味する以外の何者でもない。

日本國民は電力業者と一部財界人の利益のために、そのときの悲惨に耐へ得るか。

かくては酷暑の地に戦友の屍を越えて戦ひつつある皇軍の奮闘も、増税に耐へて、巨大な戦時

豫算を負擔しつつある銃後の熱誠も凡ては無意義ではないか。

反對論者達よ！ 卿等が軍事基金を献納したそのときの氣持ちで此の問題を再考されんことを筆者は衷心切望する。

反對論者達は、内外債の處理に困難を來し國家管理は至難であるといふ。これは一つの技術的部門に屬する問題である。

内外債の處理に相當の困難が伴ふであらうことは何人も之を知つてゐる。

然し困難が伴ふが故にといふことが、不可欠な國策の遂行を拒む理由になり得るであらうか。困難と必要と正義が常に隣り合せにゐることは誰でも知つてゐる。

それ故反對論者達にして若し國民的熱意を有ち合はすならば、此の困難を如何にして乗り切るかに就いて當局者の技術的検討に一應の支持を與ふ可きではないか？

然るにも拘らず却つて困難が伴ふが故に國家管理は至難だとか、實現の可能性に乏しい等と反對せんがための反對材料にこれを用ふる反對論者達の反對態度は、愚劣な自己慰安と、惡質なデマゴギス、的國策慢罵以外の何モノでもない。

それのみでなく、電力業者達は、政府當局が民間との腹藏なき意見の交換を行ひ、有効適切な電力國策を圓滿裡に樹立せんとして政界財界の各權威者を網羅し、五大電力の代表を委員に任命して電力調査會を設け、或は電力會社の中堅的地位にあるエキスパート十一名を専門委員に任命し、電力國策の立案に參畫せしめ、電力業者の不必要な疑心暗鬼を除き、併せて官僚獨善の罵を免る可く最善の努力が拂はれたにも拘らず、力電調査會に於ては三十五名の委員中大多數の委員が政府の答申案に賛成したに拘らず、五大電力代表は之を拒否し、同時にその出身の専門委員をも辭任せしめて、彼等の經驗、知識の提供をも拒否し、案樹立に至るまでの實相を知らぬ國民大衆に對し官僚獨善とか官民の相尅等とデマゴーギを以つて反對運動を組織してゐるのである。

明治維新以來日本民族の強味は正しき必要のためには如何なる困難にも耐へて闘ひ抜くところに現はれてゐる。

吾々は今此の重要な電力國策が採否を決せらるる時を前にし、正しき必要のために、誤れる反對運動を是正し以つて銃後國民としての責務の一端を果し、併せて有識諸氏の正しきモノへの協力を衷心切望する次第である。(完)

終